



日英交流 400 年に当たり両国地質学会が学术交流協定を締結

日本地質学会とロンドン地質学会は、日英交流 400 年に当たり、本日学术交流協定に調印した。

日本地質学会会長石渡 明とロンドン地質学会会長デービッド・シルストンによって署名された協定書には、相互の情報交換、研究・出版活動への共同参加、そしてセミナーや学術大会の共同開催などが記されている。

シルストン氏は「2つの学会の長期的な友好関係が文書化されたことは喜ばしい。両国の400年間の文化交流を祝う今年、この協定が締結されることは実にふさわしい」と述べた。

石渡氏は「世界最長の歴史をもつロンドン地質学会と学术交流協定を結ぶことは日本地質学会の名誉である。津波堆積物の共同研究を始めとして、両学会の実りある学术交流の進展を期待する」と述べた。

1613年、イギリスの帆船クローブ号は西日本の平戸に到着した。その時の公文書と贈り物のやりとりが、その後の400年間の日英両国の外交、文化、通商関係の始まりとなった。

そして英国では2013年に「ジャパン400」が始まった。歴史学者、ジャーナリスト、文化機関の代表、そして有志たちが、ロンドンや英国各地で様々な祝賀行事を実施している。

シルストン氏は、「1613年の派遣団が地質学的なことを考えていたかどうかはわからないが、その航海が鉱産物の貿易に役立ち、17世紀において日本が当時の世界の銀の約3分の1を供給するようになる道がその時に開かれたことは確かである」と述べた。

「我々は今日結ばれた協定が新しい交流の時代を開くことを期待する。両学会の学術・教育資源を分かち合うことにより、両国の地球科学界とそれを取り巻く社会全体が、お互いに利益を得ることを願っている。」

用語

【ロンドン地質学会】「ザ・地質学会」がロンドン地質学会の正式名称で、その発足当時は世界に1つしか地質学会がなかったものでこれでよかったわけですが、その後続々と英国の内外に地質学会ができたので、この地質学会を呼ぶときは「ロンドン」という地名をつけるようになりました。従って、ロンドン地質学会は英国全体を代表する、最も伝統ある地質学会で、外国から見れば「英国地質学会」であると言えます。ただし、その正式名称は今でも"The Geological Society"のままであり、「英国地質学会」という団体は存在しません。